議事要旨

1　会議名	第２回　吹田市資源リサイクルセンター指定管理者候補者選定委員会
2　議題	（１）申請者によるプレゼンテーション （２）質疑 （３）採点 （４）指定管理者候補者の選定、答申
3　開催日時	令和８年 10 月２日（金）午前 10 時 15 分～午前 11 時 45 分
4　開催場所	吹田市役所本庁舎低層棟３階研修室
5　出席者氏名	（１）選定委員 委員長　良永　康平　・　副委員長　原田　禎夫 委員　　天野　健作　・　委員　　松田　直子 委員　　大野　曜 （２）市職員［環境部（環境政策室）］
6　公開・非公開の別	非公開
7　非公開の理由	吹田市情報公開条例第７条第１項第３号及び第４号に該当する情報を取り扱うため
8　発言等の要旨	**次第１　開会** 事務局による選定方法の説明 委員からの意見・質問等無し **― 申請者入室 ―** **次第２　審査** **（１）申請者によるプレゼンテーション** 公益財団法人千里リサイクルプラザ（以下「申請者」という。）によるプレゼンテーション **（２）申請者に対する質疑等** 【委員】 現状、申請者として最優先で対応すべき課題は何か。 【申請者】 人員の高齢化。また、施設の人員が若干不足している点。

	事業のアイデア出し等は問題なく実施できている。 【委員】 人員が不足している原因は何か。また、若手・中堅層を増やしていくための方策はあるか。 【申請者】 キッズスクールや各種講座で若者にＰＲするとともに、イベントに参加する子どもの保護者にも働きかけていきたい。 【委員】 これまで何度か申請者の事業説明を聞いてきたが、従来と比較し、新しい提案内容になっていた。事業計画書の冒頭にあったように、「啓発学習施設」から「地域循環ハブ」に転換していくという理念は非常に良く、大きく評価できる。 転換に当たり様々な課題も出てくると思うが、それはやりながら改善していくものだと思う。 市民工房について、従来の「工房１」や「工房２」という名称はなくなるのか。また、工房の実施内容はどのように変わるのか。 【申請者】 「工房１」や「工房２」という名称ではなくなる。 実施内容は、木工工房と自転車工房は従来の実施内容を継続し、「エコマイスター」の認定制度も取り入れていく計画。 その他の工房については、新たな形で運営していきたいと考えている。エコマイスターに認定された方が活動する場であるとともに、市民や市民研究員、エコマイスターなど、幅広い方々が集い、それぞれが取り組みたいことや実験等に取り組める場としたい。また、そこに集まった方々の知識や技術を次の世代へ伝承できる場にもしていきたい。 さらに、そこに集まり、つながった方々が、自発的に外に向かって活動できるようになることで、活動が循環していくような場を目指している。 運営においては、その実現に向けたバックアップをしていきたい。

	【委員】 　新しい工房名「技、錬、集」の読み方が難しく、わかりにくいのではないか。 【申請者】 　今後の検討の参考としたい。 【委員】 　事業計画書において、「市民研究所において、レジ袋有料化を実現し、成果を上げている」とあるが、レジ袋有料化自体は企業が取り組むことなのではないか。 【申請者】 　レジ袋が無料配布されていた時代に、レジ袋廃止を目指して声を上げていた。その結果有料化につながった実績がある。 【委員】 　施設運営における高齢者や障がい者への配慮に関して記載があった。吹田市においても、定住外国人が増えてきていると思う。出身国によって、ごみの分別や処分の方法・習慣が大きく異なると考える。吹田市のごみ分別について発信していくだけではなく、他国のごみ行政や施策を学ぶことで日本にとってヒントになることがたくさんあるため、定住外国人と互いに学び合うことも大事。 　外国人へのアプローチに関する取組は何か考えているか。 【申請者】 　定住外国人ではないが、海外から破砕選別工場やリサイクルセンターに視察に来られることがある。その際に、お互いのごみ行政について議論してきた経験はある。 　また、大阪大学等から外国人の方が来られて協議を続けてきた経験もある。 　定住外国人に対する取組については、大阪大学や立命館大学等と一緒に協議して考えていきたい。

	【委員】 　コミュニティの結節点としての役割は重要であり、これまでも取り組んでこられたものと認識している。一方で、待っているだけではなく、積極的に外へ出て、アウトリーチを行うこと、すなわちセンターの外に出て地域のコミュニティにアプローチしていくことも重要。 　海外では、例えば高層住宅が立ち並ぶニュータウンなどにおいて、コミュニティの希薄化が課題となっている一方、コミュニティコンポストやコミュニティガーデンなどの取組を通じて、単にごみを減量するだけでなく、人と人とのつながりを再生し、コミュニティを再生していく取組が、先進国の大都市でも積極的に行われている。 　こうした事例も踏まえ、地域のコミュニティに対して、センター側からどのように外へアプローチしていくことを考えているか。 【申請者】 　コミュニティコンポストは非常に良い取組だと認識している。現在の取組としては、出前授業で公民館に出向いて講座を行うことで地域へアプローチしているが、今後はエコマイスターを活用するなど地域の生ごみ減量についても考えていきたい。 【委員】 　投資有価証券について、財務諸表を見ると、制度上やむを得ない面もあると思うが、毎期、投資有価証券評価損が相当額計上されており、この３年間で出捐金が約１億円減少している。 　一方で、投資有価証券は国債のみで運用されており、保有目的との関係から時価評価する必要があるため、現在のように金利が上昇している局面では、国債の評価額が下落し、評価損が生じることは避けられないものと考えている。 　ただし、国債を満期まで保有すれば額面金額で償還されることから、満期時には、これまで計上された評価損と同程度の評価益が生じ、結果として相殺されるものと理解している。 　また、現在の国債の利回りもそれほど低くないことから、安全性を重視した資産運用という観点では、やむを得ない運用であると認識している。

	事業計画書に「自主財源となる国債について、昨年度は、買換えによって、年利息を 240 万円増額することができました。」と記載があるが、増額についてはどの資料から確認できるか。 【申請者】 基本財産については、１億６千万円と８億円の国債で運用している。令和８年１月末に１億６千万円の国債の買換えを行ったため、実際の利息収入が入ってくるのは令和８年６月及び 12 月となる。そのため、令和８年度決算から 240 万円の増収が確認できる予定。 令和７年度までの財務諸表からは増収は確認できない。 【委員】 数字を記載する際は、裏付けがないと後で指摘を受ける要素になるため、事業計画書においては「買換えによって 240 万円の増額が見込める」という表現が適当であったと考える。 【委員】 高齢化社会や人員不足への対応として、IT 技術や AI の活用、積極的投資についてどのように考えているか。 【申請書】 会計システムなど基本的な IT 技術は導入済み。 AI の活用については、例えば本日のプレゼン資料の画像などは一部 AI を活用して作成している。 事業実施に当たり、ポスターやチラシを作る機会が多いため、今後、IT 技術、AI 等を活用しながら進めていきたいと考えている。 【委員】 「地域循環ハブ」の構想は素晴らしいと感じた。今後、社会実装を進め、地域づくりや地域に出ていくことを考えた場合、環境だけでなく、防災、福祉、まちづくりなど、さまざまな切り口が考えられると思う。そうした分野に環境の視点を絡めていくことについて、どのように考えているのか伺いたい。

	【申請者】 　環境の地域循環ハブを目指しているが、それだけではなく、ウェルビーイング、豊かな社会の構築という部分にも着目している。 　環境にやさしい生活が、生きがいや楽しさ、地域の誇りに繋がる有効な選択となるような仕組みづくりにも取り組むなど、環境以外の視点も取り入れて講座等をプログラムしていきたい。 【委員】 　施設の特性上、来館者は小学生などの施設見学者や市民研究員、職員など、比較的シニア層が多くなると思う。一方で、事業者など、関わりが弱い層もあると思うが、次の５年間において、こうした層との関わりを強化するための戦略などを考えていれば伺いたい。 【申請者】 　環境スクールでは、「ホップ・ステップ・ジャンプ」という段階的な仕組みを設け、さまざまな活動に参加していただけるようにしている。市民研究員やエコガイド、各種ボランティアなど、幅広い形で活動に関わっていただける仕組みをつくることで、人員が不足する中でも活動を維持していきたいと考えている。 　また、環境スクールなどを通じて若い保護者層とのつながりをつくるとともに、市民工房などの場も活用し、幅広い層から市民研究員になっていただけるような仕組みづくりを進めていきたいと考えている。 【委員】 　収支計画書において、自主事業収入が令和９年度から令和 13 年度までで約２倍になっているが具体的にどのような収入が増えているのか。 【申請者】 　自主事業収入の内訳としては、再生成果品の販売収入やリユース食器事業の収入が主な収入となっている。 　令和９年度から令和 10 年度は今後５年間の計画の第１期とし事業検討を進める位置付けとしているが、令和 11 年度から令和

	13 年度にかけては事業の拡張を予定しており、再生成果品の質及び量を向上させること等による収入増を見込んでいる。 【委員】 資産運用について、国債の買換えにより運用益増加が見込まれているが、一方で、インフレ率を考慮すると、運用益を確保し続けていくことはなかなか難しい面もあると思う。引き続き、健全な資産運用については検討していただきたい。 リユース食器事業については、大阪・関西万博において、京都市の京エコロジーセンターや NPO 地域環境デザイン研究所 ecotone と、地域を越えて連携して取り組んでおり、非常に評価できる。 人員の確保に関して、最近の大学生は、ボランティアよりもインターンシップへの関心が高い傾向にあるため、有償・無償の取扱いについては検討が必要だと思うが、大学生についてはインターンシップという形で活動への参加を促し、若い人材を確保していくことが考えられる。 また、高校生については探究活動に非常に熱心に取り組んでいるため、そうした活動との連携や支援を行うことで、これまでとは異なる若年層の参画を促すことができるのではないか。 そのためには、職員の安定した雇用も必要である。職員配置計画を見ると、給与が最も低い職員については最低賃金を少し上回る程度の水準となっており、非常に低い水準ではないか。社会全体として賃金が上昇している中で、職場としての魅力を確保することが難しくなることも考えられる。 職員の待遇・処遇の改善については、現在どのようなことを考えているのか、また、課題として認識していることがあれば伺いたい。 【申請者】 職員の給与については、毎年度、約５％ずつの上昇を計画している。（４％のベースアップ及び１％の昇給） 約５％ずつの上昇を行う計画ではあるが、少しでも多く賃金を上げていけるよう事業の効率化に取り組んでいきたい。 各種補助金及び助成金獲得にも取り組んでいきたい。

	― 申請者退室 ― **（3）採点** **― 暫時休憩、事務局による採点結果の集計 ―** 事務局から、集計の結果、全委員の評点の平均点が 60 点以上であることを報告 【委員長】 採点結果に基づき、公益財団法人千里リサイクルプラザを吹田市資源リサイクルセンターの指定管理者候補者に選定することに異議はないか。 【全委員】 異議なし。 【委員長】 公益財団法人千里リサイクルプラザを吹田市資源リサイクルセンターの指定管理者候補者に選定する。 **次第３　答申** **― 委員長が環境部長に答申書を手交 ―** **次第４　開会** 事務局による今後のスケジュールの説明 委員からの意見・質問等無し